

カネのなる木があった村

「平岸」のいまむかし

平岸リンゴ園の面影を求めて

かつて、全国有数のリンゴの産地だった平岸。一面のリンゴ園を見下ろしていた天神山に、消え行くリンゴ園の歴史を後世に伝えるため、石川啄木の歌が刻まれた平岸林檎記念歌碑が建立されたのは、昭和四一（一九六六）年。現在では、数少ないリンゴ倉庫や環状通の「リンゴ並木」がリンゴ園の面影を残しています。今回は、かつての平岸を知る方に、平岸リンゴ園の盛衰などのお話をさせていただきました。



リンゴの収穫（昭和35（1960）年ころ）



天神山（平岸2条17丁目）にある平岸林檎記念歌碑

昭和二五（一九五〇）年にそれまで住んでいた簾舞から平岸に移り住み始め、平岸農業協同組合に就職しました。事務所は、地下鉄平岸駅付近にありました。働き始めてからすぐに、リンゴ園を営んでいた三上容志郎さんが「平岸に住むならどこでも使っていから、自分でリンゴの木を切って住みなさい」と言うので、リンゴ園の木を六本ぐらい切っ

平岸に住み始めた当 時のこと

て、そこに家を建てました。その当時の平岸の様子ですが、今の平岸街道の真ん中にきれいな水の用水路があつて、魚も泳いでいました。その用水路の両脇の道路に沿って高さ二メートルくらいのおんこ並木の垣根があり、その後ろには、リンゴ園が一面に広がっていたものです。「定鉄（定山溪鉄道）の電車の窓から手を伸ばせばリンゴが取れる」といわれるほどリンゴの木がたくさんありました。

「平岸」を語る

小林 昭雄さん
（平岸在住）



昭和2年生まれ（77歳）
昭和25年から平岸に移り住む
平岸農業協同組合（のちに札幌市農業協同組合）に勤務
昭和55年定年により退職

リンゴ並木



環状通のリンゴ並木

昭和49年（1974年）11月、平岸リンゴと開拓の歴史を後世に伝えるため、環状通の豊平区役所前から、国道36号までの中央分離帯約1.1kmに「リンゴ並木」が誕生しました。現在11品種84本が植栽されています。